

日本経済新聞

6月18日

火曜日

発行所 日本経済新聞社
東京本社 (03)3270-0251
〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7
阪本支社 (06)7639-7111
大谷支社 (052)243-3311
西支社 (092)473-3300
札幌支社 (011)281-3211

環境ステーション

あなたと未来を考える



ご購読・お問い合わせ
0120-21-4946(7:00-21:00)

の円売り加速

ISA、海外投資増 5

「曲がる太陽電池」と呼ばれるペロブスカイト型は日本発の技術で量産化への取り組みが進んでいる。現在普及する太陽光パネルは国土の狭い日本で設置余地が限られる

年功序列を廃止

三井住友銀、26年メド 8



曲がる太陽電池 積極投資

供給網構築 中国に対抗

太陽光パネルの半分程度だった。新素材により耐

用年数を20〜30年程度に延ばせる可能性がある。新素材は2025年から量産する計画だ。30年ごとに、数十億円規模の売上高を目指す。6月から電池を開発するメーカー向けに試験出荷する。

ENEOS HDはペロブスカイト型の主原料となるヨウ素を増産する。日揮HDはペロブスカイト型を工場や倉庫などに設置し、26年をめぐりに電力事業を始め

講堂会社のフォーチュン・ビジネス・インサイツによると、世界のペロブスカイト型太陽電池の市場規模は32年までに5

し、中国勢に対抗できる強いサプライチェーン(供給網)をいち早く築き、国内外に販路を広げる必要がある。日本政府も産業の脱炭素化を目指すため、総額2兆円超の「グリーンイノベーション」(G-I)基金を設け、約648億円をペロブスカイト型の実用化に向けた支援に振り向ける。30年にペロブスカイト型を社会実装する方針だ。

キヤノンも薄くして曲がるペロブスカイト型太陽電池の耐用年数を2倍の20〜30年に延ばせる素材を開発した。ENEOSホールディングス(HD)は主原料となるヨウ素の生産能力を5倍に増やす。ペロブスカイト型は中国が量産化で先行し、特許出願も増やしている。政府の支援を受け、高品質な国産品を低コストで生産できる「もつ」にして国際競争力を高める。

キヤノン、劣化を防ぐ素材 ENEOSは主原料増産

ペロブスカイト型への投資が進む

工程	企業名	主な動き
素材	ENEOS HD	主原料となるヨウ素の生産能力を5年以内に倍増
	INPEX	千葉県でヨウ素の増産を検討
	キヤノン	寿命を2倍に延ばす素材を25年量産
電池	積水化学工業	25年の事業化に向けて実証実験中
	パナソニックHD	ガラス建材一体化型で実証試験中
設置	ウェストHD	効率的な設置方法の研究を開始
	日揮HD	26年をメドに電池を活用した電力事業を開始

うえ、中国からの調達依存度が高いという課題を抱える。キヤノンが開発した新素材は「ペロブスカイト層」と呼ばれる発電を担う部分を保護するの

なる。保守・修繕の負担が軽くなり、太陽電池の普及につながる。ペロブスカイト型を開発した桐蔭横浜大学の宮坂力特任教授とも共同研究している。

ペロブスカイト型の耐用年数は10〜15年と、太陽電池が劣化しにくく

基本方針(骨太の方針)の原案にもペロブスカイト型の研究開発体制や人材育成、供給網の構築を支援するとの明記し

経済財政運営と改革の基本方針(骨太の方針)の原案にもペロブスカイト型の研究開発体制や人材育成、供給網の構築を支援するとの明記し